

モーツァルトの生きた時代

高梨ほの香

序

1. モーツァルトの誕生とその時代背景
 2. 神童モーツァルトと容貌・性格等に関する逸話
 3. 作曲
 4. 逆境と経済状況
- 結

序

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756 年-1791 年) は幼少期から父、ヨーハン・ゲオルク・レオポルト・モーツァルト Johann Georg Leopold Mozart (1719 年-1787 年) から音楽の英才教育を受け、特にピアノの歴史において比較的初期の時代の作曲・演奏に携わったことはよく知られている。そのモーツァルトについての音楽的評論は多いが、そのような評論を理解するには音楽的素養が不可欠である。そこで本稿ではそのような素養がなくとも、モーツァルトについて少しでも興味を持てそうな（例えば、CD を購入してみる等）伝承を中心に紹介することにした。

1. モーツァルト誕生とその時代背景

モーツァルトは 1756 年 1 月 27 日にオーストラリア、ザルツブルク州に生まれのクラシック音楽古典時代の作曲家である。父レオポルドは作曲家としても著名でかつバイオリニストだった。母はアンナ・マリア・モーツァルト Anna Maria Walburga Mozart (1720 年-1778 年) という。

音楽史においては古典派時代に属し、年の離れた同時代人にフランツ・ヨーゼフ・ハイドン Franz Joseph Haydn (1732 年- 1809 年) 等がいる。

イタリアのバルトロメオ・クリストフォリ・ディ・フランチェスコ Bartolomeo Cristofori di Francesco (1655 年-1731 年) によりピアノの原型が発明されたのは、1709 年であったから¹、まだピアノが発明されてから半世紀も経っていない。

2. 神童モーツァルトと容貌・性格等に関する逸話

成長したモーツァルトは「下書きをしない天才」と言われるほどの記憶力があり、譜面には訂正がほとんどないという。

3 歳でピアノ前身クラヴィーア、4 歳で、チェンバロを弾きこなした。5 歳で既に作曲をし『アンダンテ ハ長調 K. 1a』を作曲した。

また集中力もあった。交響曲 36 番は 3 日で作成したと言われる。

モーツァルトの容貌は音楽の教科書や、音楽室などで見たことあるだろう。天才、神童と思わせる顔立ちをしている。しかし実際はそのイメージとは全く違うと言われている。実は 11 歳で天然痘にかかり、その跡が残っていて、しかも鼻は丸かったという。

性格については諸説がある。明るくユーモアあったという者もいれば、楽天的で性格が悪かったという者もある。

3. 作曲

モーツァルトの作曲は、行進曲 41 曲、番号がないのを合わせると 46 曲、ピアノ曲は 27 曲、バイオリン曲は 7 曲、協奏曲 50 曲以上あり、ほとんど長調である。西洋の作曲家が、オスマン帝国の音楽団のメフテルの音楽にインスピレーションを受けて作曲したという有名なトルコ行進曲もその 1 つである。

ではどうして長調の曲が多いのか？ 当時は自分の作りたい曲ではなくとも注文を受けてつくり、かつ当時の流行が長調なので長調の曲が多くなった。当時の音楽家は音楽職人みたいな者で、現在のように著作権がなく、注文された曲を作って報酬をもらうと

¹ヤマハ「ピアノ誕生ストーリー」

<<http://www.yamaha.co.jp/plus/piano/?cn=10302&ln=ja>>2016 年 12 月 19 日アクセス。

それきりだった。だからモーツァルトは自ら公演をして、収入を得て生計を立てていた。

4. 逆境と経済状況

しかしモーツァルトの作風はウィーン時代（1781 年～）後半には人々からあまり受け入れられなくなっていき、モーツァルトの人気は下降気味になった。しかしそうした中でなされた作曲には素晴らしい作品が多く、今日まで演奏し続けられている。

モーツァルトは人気は下降していても努力をし続けており、ベルリン、ドレスデン、ライプツィヒ、といったドイツ諸国宮廷に旅をしている。そして旅先での演奏会は成功しており、それなりに報酬はあった。だからこそモーツァルトの経済状況は謎である。というわけは収入をチェックすると乏しいとはいえず、成人男性相応の生活ができる額であったからだ。それにもかかわらず、モーツァルトは毎日のようにパトロンへの借金依頼を重ねていた。妙ではないか。なぜ借金をしなければならなかったのだろうか。

理由としてはいくつかあげられている。一つは賭博におぼれたのではという説である²。上流階級でも下層市民でも賭博が流行していて、貴族ですら首が回らない状態に陥ることは珍しくなかったという。モーツァルトが 1877 年にカジノにおける音楽会の計画をしていることから賭博の隆盛ぶりがうかがえる。

第 2 の説として、事細かに金銭面の指示をした父、レオポルドへの当て付けであったという説がある³。そのため収入以上の出費をしたのだという。

ただ何にせよ、モーツァルトの出費は遊び好きの性格からというよりも芸術の自由を保つために必要な事であり、彼の芸術の豊かさはその上で成り立っているともいえる。

ともあれモーツァルトがこの世を去った時の遺産は 16 グルテンであった。これは現在の日本円に換算すると、15 万 3 千円であ

²ここまでの記述は、後藤真理子『モーツァルトその生涯とミステリー』（河出書房新社、2006 年）72-74 頁による。

³高橋英郎『モーツァルト』（講談社、1983 年）92-96 頁。

る。この程度しか残っていなかった。これでは満足な葬儀もできない。そしてさらに借金も3千グルテン≒765万円であった。

結

モーツァルトは天賦の音楽的才能があったとはいえ、必ずしもその生涯において恵まれていたとはいえない。しかしモーツァルトはザルツブルクやウィーンの音楽形式を取り入れたり、人気が下降しても作曲をやめず弛まず多くの努力をしてきており、その業績は未だに多くの人を引き付けている。またその謎の多い生涯についても人の興味を引いているのだ。

参考文献

脚注に挙げた文献の他に以下の資料も参照した。

『完全攻略モーツァルト』2008年

〈<http://www.mozartcomplete.com/>〉。

『モーツァルトの真実』2009年9/16。

〈<http://www.1134.com/matsuoka/essay/p000916e.shtml>〉。

『世界の民謡・童謡』2016.12/12

〈<http://www.worldfolksong.com/sp/classical/mozart/index.html>〉。